

| | | | |
|--------------------------------|---|---------|----------------------|
| 1. 科目名 (単位数) | ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (P) (2単位) | 3. 科目番号 | PSMP3482 SBMP4482 |
| 2. 授業担当教員 | 近藤 重晴 | | |
| 4. 授業形態 | 講義、個別学習、グループ学習 | 5. 開講学期 | 春期 |
| 6. 履修条件・ 他科目との関係 | | | |
| 7. 講義概要 | <p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲでは、社会福祉実践に必要な知識と技術習得のための実習計画の作成、記録の技法等、実習実施のための学習とともに、実習後指導を通じて実践評価を行い、実践上の課題を明確にする。</p> | | |
| 8. 学習目標 | <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門職実習、つまりソーシャルワーク実習（相談援助実習）で求められ、確認すべき専門技術について明確に説明することができる。 2) 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習プログラム（案）を立案できる。 3) 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4) 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 5) 実習実施後の総括を踏まえ、実践に向けた自己の課題を明確に文書化できる。 | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート 課題 | <p>課題1：ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成 課題2：ソーシャルワーク実習 実習プログラム（案）の作成 課題3：ソーシャルワーク実習報告書の作成</p> | | |
| 10. 教科書・参考書・ 教材 | <p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第2版、中央法規、2014年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】 川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014年。</p> | | |
| 11. 成績評価の規準と 評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職実習、つまりソーシャルワーク実習（相談援助実習）で求められ、確認すべき専門技術について明確に説明することができる。 2. 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習プログラム（案）を立案できる。 3. 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 5. 実習実施後の総括を踏まえ、実践に向けた自己の課題を明確に文書化できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題1 20% 2. 課題2 20% 2. 課題3（実習報告書） 30% <p>講義参加度（事前事後学習、提出物等状況を含む） 30%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p> | | |
| 12. 受講生への メッセージ | <p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言、発表等）できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 | | |
| 13. オフィスアワー | 授業中に通知します。 | | |

| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
|----------------|--|------|---|
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 | 事前学習 | ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成した課題1を読み返し、修正箇所等を改善し講義に持参する。 |
| | | 事後学習 | ソーシャルワーク実習の実施に至るまでに取り組むべき自己課題についてノートにまとめる。 |
| 第2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り：ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ・ソーシャルワーク基礎実習の学習効果と課題の整理：ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成（課題1） | 事前学習 | ソーシャルワーク基礎実習を振り返り、実習プログラムに関する自己評価を行う。 |
| | | 事後学習 | 課題1の作成（講義内で提示される提出期限厳守）。 |
| 第3回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習の目的と内容の理解：ソーシャルワーク実習の全体像と目的、課題について理解する | 事前学習 | 東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」p.9を熟読する。 |
| | | 事後学習 | ソーシャルワーク実習においてすべきこと regarding ノートにまとめ、口頭で説明できるようにする。 |
| 第4回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の評価：返却されたソーシャルワーク基礎実習評価をもとに、自己評価を実施 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：実習目標と目標を達成するための展開方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成（課題2） | 事前学習 | 東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」pp.20～の実習プログラミングの実習先該当箇所を目を通す。 |
| | | 事後学習 | ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。 |
| 第5回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：「実習記録」及び「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成 | 事前学習 | ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ担当教員から添削を受ける。 |
| | | 事後学習 | 事例をもとに「ソーシャルワークケース記録」の記入を行い提出する。 |
| 第6回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成 | 事前学習 | ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ担当教員から確認を受ける。 |
| | | 事後学習 | ソーシャルワーク実習指導Ⅲ担当教員と協議した実習プログラム（案）を、実習先指導者へ提出、協議を行う（ソーシャルワーク実習事前訪問の実施）。 |
| 第7回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習に向けて最終確認：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認 | 事前学習 | 東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」pp.38～42・p.54を熟読し、実習中の留意事項について理解する。 |
| | | 事後学習 | 実習に向けた準備を行う。 |
| 第8回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習（10日間）の振り返り：ソーシャルワーク実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う | 事前学習 | 実践活動における自己課題について記録にまとめる。 |
| | | 事後学習 | 実習実施中間報告書を作成し担当教員へ提出する。 |
| 第9回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：ジェノグラムとエコマップについて・プランニングについて ・他職種連携とチームアプローチについての理解：実習施設・機関の他職種・他職員とのチームアプローチのあり方について考える ・帰校指導について説明・理解 | 事前学習 | 10日間のソーシャルワーク基礎実習、また10日間のソーシャルワーク実習を振り返り、他職種連携に関する業務を想起する。 |
| | | 事後学習 | ソーシャルワーク実習実施にあたり、他職種連携・チームアプローチについて考察を深めるための実習プログラムを具体的に作る。 |
| 第10回 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への働きかけについての理解：実習施設・機関と関わる社会資源についてまとめうえで、その関連性と働きかけの方法について考える ・クライアントへの援助実践についての理解：クライアントへの支援において適用できる実践アプローチについて考察する | 事前学習 | 10日間のソーシャルワーク基礎実習、また10日間のソーシャルワーク実習を振り返り、施設・機関と地域社会とのかかわりに関する事項を想起する。 |
| | | 事後学習 | ソーシャルワーク実習実施にあたり、社会資源との連携について考察を深めるための実習プログラムを具体的にするとともに実践モデル・アプローチについて内容を確認する。 |
| 第11回 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理綱領と実践についての理解：実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性について考える ・実習の評価について理解する（テキスト pp.290～308・及び東京福祉大学ソーシャルワーク実習生自己評価表）：実習評価の意義について理解を深める | 事前学習 | ソーシャルワーク実習プログラム（案）及びソーシャルワーク実習 自己評価表の内容を確認する。 |
| | | 事後学習 | ソーシャルワーク実習実施にあたり、専門職倫理の実践について考察を深めるための実習プログラムを具体的に作る。 |

| | | | |
|------|--|------|----------------------------|
| 第12回 | ・ソーシャルワーク実習の振り返り： ソーシャルワーク実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う | 事前学習 | 実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。 |
| | | 事後学習 | 実習報告書を作成し担当教員へ提出する。 |
| 第13回 | ・ソーシャルワーク実習の学習効果と課題の整理： ソーシャルワーク実習の実施を踏まえて実習報告書を作成（課題3） | 事前学習 | 実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。 |
| | | 事後学習 | 実習報告書を作成し担当教員へ提出する。 |
| 第14回 | 実習の評価・総括（実習成果発表会）① | 事前学習 | 実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。 |
| | | 事後学習 | 教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。 |
| 第15回 | 実習の評価・総括（実習成果発表会）② | 事前学習 | 実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。 |
| | | 事後学習 | 教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。 |